

貴方の幸福は靴から

おしやれば足から

服飾文化といふことがいれられ、老人に至るまで服飾については深い知識と熱心を持っており、いろいろのデザインやカラーの色を調和して着ている、しかし服装のポイントといわれるところを大切に履いて来た。靴についてはまだまだ関心の薄い人が多いようだ、特に婦人靴は、色も多岐にわたるが、履くための選別が非常に難しくなっている、そこで、ピッタリ合った靴から幸福を生れたい、と、ついでに、おしやれば足元からの秘訣を公開しよう。



「靴の歴史」古代文化の発祥地であるエジプト、西アジア、ギリシャ時代には日本のワラジや草履に似たサンダルが用いられた、それがローマ時代にたつて革の長靴や半長靴に変わった、十七世紀になつてイギリス、フランスなどでヒールのある靴が履かれるようになった、短靴が一般に普及されて耐久力の強い衛生的な履物として革靴が採用され、今日に至つた、日本では、アイヌ族が武蔵野に住んでいた大正時代、皮やサシの皮で履いた靴を履いていた、今から千二百年前の「けりまり」で有名な本願寺足元のくつは、大正時代の履物に定められた儀式用のもので、武士は毛くつを、官公庁はフツツと草履を履いていた、その後、徳川三百歳の鎖国時代は、足元の履物が、草履の時代を要としたため、明治二年になつて洋靴の製作がはじられた。

「靴の常識」男子は通脚、礼装、散歩用の三足は必須、婦人靴も三足は必須で、一足は気取ったスポーツ型のローヒールかフラット、二足はキーンボルト、三足はヒールで一番楽で歩きやすく、遠征しても疲れなく、理想的、もう一足は外出訪問用のハイヒールで、服装との調和のとれた色彩を選ぶべきだ、雨靴は従来のオールドシューズから飛躍して、軽快なゴムソール製のオールドシューズもある、足に合う靴を選ぶことは、永持ちすることで、履物クツの履き本型の寸法が合っていないと、かかとが曲がり、足が痛む、これは、曲がった足で、足袋の九分あり、人より足の中が広い、かかとが高い場合は、一丁上のサイズ78の人は78が丁度よい、パンプスのようなクツは多少、少く、ひもでしめるクツ

「お多幸(開店)」平市中町酒蔵「お多幸」は二日開店した、有名酒を取り揃え左様の来客をまつている。

恒例春の園芸市 五日平市で開く

茨城、宮城それに本県の生花園を揃めて行われる恒例の第二回園芸市は五日午前十時から平市御前町生花市場で開かれる、これは、昨年から平市生花、生花組合など主催で毎年行われて今年も生花を始め、花苗、球根、木物など千三百余点を出品して行われる。

「大野未亡人のやよい会発足」四倉町大野支所では昨日二日午後一時から同会館に吉田町長、根本生田市長、同地区未亡人約四十名が参加し、規約制定、役員選任

「お多幸(開店)」平市中町酒蔵「お多幸」は二日開店した、有名酒を取り揃え左様の来客をまつている。

映画は大映

高校卒業前後

浅草の灯

4日3日

世界館

市川和子、近藤美恵子、梅若正義、市川春代、市川右太衛門、川島雄三、大友柳太朗、大友柳太朗、大友柳太朗

電話 五二二二番

を新設致しました

湯本中央青果市場

常盤市関船

電話 五二二三番

を新設致しました

富士薬局

池田邦恭

常盤市天王崎

電話 五二四番

を新設致しました

青柳履物店

常盤市天王崎

電話 五二五番

を新設致しました

サカエ鉄工所

野木栄

常盤市三國三〇九

電話 四二九番

を新設致しました

吉田理髪店

吉田昇

常盤市湯本町

電話 五〇四番

を新設致しました

魚直佐藤鮮魚店

常盤市湯本町

電話 五一八番

を新設致しました

渡辺商店

渡辺寅一

常盤市湯本町八番地

電話 五一九番

を新設致しました

小野酒店

小野寅藏

常盤市長倉入口

割烹

開花

四倉町三三九

